

平成 27 年度（2015 年度）事業計画書

（はじめに）

2015 年度の公益財団法人鼓童文化財団は、2012 年 4 月に株式会社北前船より経営を独立させて 3 年目となり、公益活動の更なる充実と経営の健全化を両立させる大切な年になると考えている。

その重点分野としては、2014 年から取り組みを始めた、以下の 3 事業の充実を図る。

「深浦学舎」を活用した社会人向けの研修プログラム「未来の学校」及び太鼓愛好者向けの合宿プログラムの提供を通じた、佐渡における新たな収入源の開拓。

佐渡市高齢福祉課と共同で取り組んで来た、認知症予防プログラム「エクサドン」の応用形として、太鼓を通じたメンタルヘルスプログラムの開発。

「地域づくり」コースの実習プログラムの成果として、地域ビジネスを担う人材と仕事の創造。

（重点分野）

- 深浦学舎の活用による、研修プログラムの充実
- メンタルヘルスプログラムの開発
- 地域の未来を担う人材と仕事の創造

（実施事業）

- ア. 人づくり
- イ. 地域おこし
- ウ. 芸術文化の振興
- エ. 国際交流
- オ. ファンドレイジング

ア. 人づくり

（研修および体験学習を通じた担い手の育成）

（1）「太鼓芸能集団 鼓童メンバー養成」コース

旧岩首中学校を拠点に、舞台メンバーを養成する研修プログラムの更なる充実をはかるため、太鼓芸能集団 鼓童、株式会社北前船と共にカリキュラムの再構築を行う。

- 一年次 4 月～1 月 約 12 名
- 二年次 2 月～1 月 約 8 名

（2）「地域づくり」コース

「地域づくりコース」試行第 1 期実習生（中村美沙希・赤澤京）が、2 年目の実習を希望していることを受け、「働きながら学ぶ」実習スタイルの確立への取り組みを進める。それに伴い、2015 年度の新規実習生の受け入れは行わず、2 年目の実習生のサポートに資源を集中し、2016 年度からの本格始動を目指す。

- 試行第 1 期実習生の 2 年目の実習サポート

イ. 地域おこし

(地域資源を利用した地域活性化)

(1) 佐渡太鼓体験交流館（たたこう館）の運営

県内修学旅行生を対象とした太鼓体験は、好評をいただき定着しているが、時期が限定されており、また少子化の影響で今後参加人数の減少が予測されることから、新たな体験プログラムによる収入を生み出す。具体的には、島民向けの冬期太鼓レッスン、深浦学舎での宿泊とセットにした太鼓体験を提供するほか、4月より個人体験料金を改定し、今後増加が期待される個人体験による収入増を図る。また、旅行業登録、佐渡特別公演の開始を機に開拓してきた旅行会社との関係を生かし、3月の北陸新幹線開業、4月の小木直江津航路の高速カーフェリー就航による観光客の増加を見据え、地域に点在する体験施設や体験活動の結節点（ハブ）としての機能を充実させる。

そして、風光明媚なロケーションの魅力を活かした、レストランの開設に向けた可能性を探る。

- ・ 太鼓体験、刺し子教室、伝統料理教室、ミニコンサート、講演ほか

(2) 鼓童 佐渡特別公演

2015年は春のゴールデンウィークと秋(9月)のシルバーウィークに宿根木公会堂を会場に開催する。北陸新幹線開業、高速カーフェリー就航による利便性の向上を受けて、長野・北陸・関西方面への営業を強化する。

会場となる宿根木公会堂は、秋より本格的な改修工事に入り、2016年3月末に竣工予定。

(3) 佐渡の地域振興に資する各種団体の事務局運営や活動のサポート

- ・ 佐渡国小木民俗博物館を地域の文化拠点として活性化する事業
民俗学者・宮本常一の構想理念である、人材育成に貢献する地域文化の拠点としての博物館を活性化させる、地域と行政が一体となった取り組み。
- ・ 深浦小学校校舎活用委員会
旧深浦小学校学区8集落の代表により構成され、閉校後の校舎の活用を推進する委員会。
- ・ 小木湊まちなみの輪
佐渡小木湊（小木港と共に発展した地域）の歴史を活かしたまちづくりを促進し、地域活性化に寄与することを目的に活動を行う市民団体。

(4) アースファニチャー事業

EC2002でのフォーラム「佐渡の森は蘇るか？」をきっかけに始まった実践企画「アースファニチャー」。里山の再生と地域経済の活性化、児童・生徒への新たな環境教育への取り組み。

- ・ 新潟県立佐渡高等学校の生徒ロッカー導入
- ・ 緑の少年団によるベンチの製作

(5) 深浦学舎の運営

鼓童グループによる活用と共に、永年の夢である「日本海大学」に繋がる学びの場として活動を活性化させる。その一つの取り組みとして、コーネル大学（アメリカ・ニューヨーク州）、ifs（伊藤忠フ

アクションシステム）未来研究所の研究者と協働で開発する、研修プログラム「未来の学校」を年 3 回（5 月、7 月、11 月）実施する。本事業の普及に向けて、初年度は新潟県内の企業経営者、社会人の参加を募る上で、第四銀行（本社：新潟市）、新潟商工会議所との連携を強化する。

ウ. 芸術文化の振興

（伝統文化の調査研究を通じた芸術文化の振興）

（1） 佐渡の文化に関する調査研究及び資料収集

郷土芸能の調査研究と資料収集、鼓童の映像資料、寄贈図書、レコード・CD の整理から始まった本事業は、地域振興に向けた研究と実践への取組みに広がっており、深浦学舎に佐渡に関わる図書資料の閲覧コーナーを整備する。

また、調査研究の過程で出会った団体や地域の課題に取り組む活動への参加を通じて、地域の文化活動と地域づくり団体への支援と連携を深めている。

（2） 伝統文化・文化活動への支援

東日本大震災被災地・郷土芸能復興支援活動（Heartbeat Project）

- ・ 岩手県・陸前高田けんか七夕祭り復興の記録
- ・ 岩手県・大船渡綾里（りょうり）地区の五年祭再興への関わり

（3） アウトリーチ活動

鼓童が培って来たノウハウを体現する鼓童名誉団員の活動支援と、新たな創造や普及に繋がる実験的なパフォーマンスやワークショップを通じた活動を進める。また、外部団体、専門家との協働により、そのノウハウの応用、社会貢献に向けた研究活動を行う。

主なもの：

- ・ 丸の内朝大学（齊藤栄一）
- ・ 鼓童塾（齊藤栄一、藤本吉利、藤本容子、小島千絵子、山口幹文）
- ・ ロンドンの太鼓グループ「太鼓ミーンタイム」とのコラボレーション「道成寺」（小島千絵子）
- ・ ゆきあひ「清姫」DVD・写真集製作支援（小島千絵子）
- ・ 研修生と島内中学生の交流学校公演

（4） 太鼓と医療介護を融合させたメンタルヘルスプログラムの開発

佐渡市高齢福祉課と進めている認知症予防プログラム「エクサドン」を応用させ、社会的な課題になっているメンタルヘルスをサポートする、太鼓芸能を通じた理学療法、作業療法、言語療法、健康スポーツに融合させた研究と実践を、それぞれの分野の専門家と協働で行う。

エ. 国際交流

（国際的な文化交流の場づくりと実践）

(1) 国際芸術祭「アース・セレブレーション」の実施・運営

28回目の開催となる、「アース・セレブレーション2015」は、城山コンサートにインドネシア・バリ島の巨大竹製楽器演奏グループ「スアール・アグン」と、元鼓童メンバーのレナード衛藤をゲストに迎える。また、佐渡の歴史や自然に触れる体験企画とともに、新たな佐渡の玄関口として注目される小木みなど地区の町並みを舞台にした企画の充実を図る。

運営面では、事務局機能への佐渡市の関わりを深化させる目的で、総合政策監を司令塔とし、観光振興課に加え、各部署からの参加を得て、行政施策との連動と協力体制を構築する。

開催期間：2015年8月21日（金）～8月23日（日）

- ・ 城山コンサート、ワークショップ、トーク&ライブ、セミナー、佐渡体験プログラム、ハーバーマーケット、フリンジ ほか

(2) 北米太鼓会議への講師の派遣

3年振りに開かれる北米太鼓会議にワークショップとセミナーの講師を派遣する。

(3) スタンフォード太鼓の受入

アメリカ西海岸の名門スタンフォード大学の太鼓グループの日本ツアーに合わせて深浦学舎で3泊4日（6月19日～22日）の受入を行い、鼓童の太鼓体験と佐渡の文化体験を提供する。

オ. ファンドレイジング

(資金調達力の強化)

(1) 企業との関係強化により法人寄付の強化

深浦学舎における企業向け研修プログラム「未来の学校」を開催し、企業からの職員派遣を通して関係づくりを進める。また、企業の社会的責任（CSR）に対して、財団がノウハウを提供し、協働して社会貢献活動を行うことで相互の関係強化を図る。

(2) 寄付のオンライン決済システムの定着化

2014年に導入した、インターネットを利用した決済サービス「PayPal」（ペイパル）による、寄付金収入の増加に向けて、財団ホームページの寄付メニューの整備を行う。

(3) インターネット時代の資金調達手法の導入

- ・ クラウドファンディング（インターネットを通じた不特定多数からの資金調達）
- ・ 古本募金「きしゃぼん」（古本を換金して希望の活動団体に寄付）
- ・ ソーシャルフォース（非営利団体向け顧客管理システム）

(4) 鼓童の会

- ・ 永年賛助会制度の導入